

月経をとりまく環境の改善を目指す学生主体の取り組み

TOYO-MeWプロジェクトの歩み

月経の諸問題について研究するMeWプロジェクト。東洋大学においては2022年10月に白山キャンパスにおいてTOYO-MeWプロジェクトとして始まりました。それからわずか1年半、参加する学生が自ら企画し積極的な活動を行ってきたことが実を結び、この春よりプロジェクトは東洋大学全キャンパスへ広がることとなりました。その活動内容とプロジェクトメンバーの想いをご紹介します。



<p>2022 /10</p>	<p>生理用品無償配布用のディスペンサーを白山キャンパスに設置</p> 	<p>ディスペンサー設置トイレ10か所増設!</p> 	<p>月経xお笑い!? 池袋D-1グランプリで漫才披露</p> 	<p>ロゴの考案</p> 	<p>防災備蓄品の活用</p> 	<p>ニュースレター発行</p> 	<p>WS開催</p> <p>全キャンパスに拡大!</p>
<p>2023 /12</p>	<p>アンケート実施</p> 	<p>トイレ個室にポスターを設置</p> 	<p>SNSで発信</p> 	<p>吸水ショーツプロジェクト始動</p> 	<p>2024 /02</p> 	<p>2024 /04</p> <p>赤羽台キャンパスでのメンバー募集</p> 	

MeWプロジェクトとは

Menstrual Wellbeing by/ in Social design

2021年3月に大阪大学UNESCOチェアの研究プロジェクトとして始まり、生理用品の無償提供用のディスペンサーの開発・設置の実証実験を通じて、日本における月経の諸課題について研究する取り組みです。



TOYO-MeWプロジェクトのはじまり

東洋大学におけるMeWプロジェクトは、2022年10月、国際学部国際地域学科中村ゼミの当時4年生を中心に、東洋大学国際共生社会研究センターのプロジェクトとしてスタートしました。学生メンバーが生理用品無償配布用のディスペンサーを組み立て、白山キャンパス内10カ所のトイレに設置。ディスペンサーの横には実証実験を知らせるポスター及びQRコードが貼られており、利用者が意識調査アンケートへアクセスできるようになっています。

その他、Instagramにおける広報・宣伝活動、「月経xお笑い」の開発、「吸水ショーツプロジェクト」など、学生主体の取り組みとして活動範囲を拡大中。プロジェクトの趣旨に賛同する学生の数も年々増えており、現在、メンバー数は30名を超えています。



EVENTレポート 2024/2/6

東洋大生がワークショップで考えるSDGs 生理から問う社会の『当たり前』

オンラインも含め、国内外から参加者が集った今回のシンポジウム。第1部では、「#みんなの生理」共同代表である谷口歩実氏をお迎えし、日頃の取り組みや生理の課題に取り組む意義、今後の課題などについて講演を行っていただきました。

また、第2部ではMeWプロジェクトメンバーが登壇し、同プロジェクトの活動報告や今後の展望などについて発表。第3部では、参加者からリアルタイムで届いた質問・疑問に関するディスカッションの時間が設けられ、「生理という課題に対して関心が持てない人にどう働きかけるべきか」「生理痛が重い人にはどのように寄り添うべきか」といったテーマについて、それぞれの立場からの提言や意見交換がなされました。

第1部 #みんなの生理 共同代表谷口氏 講演



第2部 学生によるTOYO MeWプロジェクト活動発表



第3部 参加者ディスカッション





マイノリティの視点から社会の「普通」を問いなおすことで「『文化』は変えられる」TOYO-MeWプロジェクトは学生たちが踏み出した、その一歩。

所属 国際学部国際地域学科 国際学研究科国際地域学専攻
専門分野 アフリカ地域研究/文化人類学

中村 香子 教授

—まずは、中村ゼミと MeWプロジェクトの関係性について、ご紹介をお願いいたします。

中村ゼミは、「マイノリティ研究」というテーマを打ち立て、マイノリティの視点から世界を見直すことを重要視しているゼミです。その上で昨今は、ジェンダーに関する問題に興味・関心を抱いている学生がとても多いことも特徴と言えます。そんな中で、今の MeWプロジェクトへ関わるきっかけともなった出来事が、ゼミに所属していたある1人の学生から、「自身の生理に関する悩みをテーマに卒論を書きたい」という声があがったことでした。私自身はアフリカなどをフィールドに人類学や地域研究を専門にしてきましたので、日本における生理の問題というのは完全に専門外でした。しかし、その学生とともに国際共生社会研究センターの協力を得て、無償配布の実証実験と意識調査を実施することにしました。そしてその結果から、生理に関してどれほど多くの方が苦しんでいるのか、そして多くの場合、誰にも相談せずただ耐えているという事実を目の当たりにしたのです。「この問題に、私たちにできる形でしっかりと光を当てなければならぬ」。その思いこそが、現在に至るまで、当ゼミが MeWプロジェクトに関わらせていただいている背景でもあります。

—MeWプロジェクトの具体的な活動内容について、改めてご紹介をお願いいたします。

生理用品の無償配布と実証実験からスタートしたこのプロジェクトですが、より多くのアイデアや新しい取り組みも生まれています。中でも興味深いと思っているのは、「月経×お笑い」のプロジェクト。生理に関するタブーや無理解、不満、もやもやなどをお笑いで解決したいという学生のアイデアから始まったものですが、プロの芸人さんをゼミにお招きして漫才のネタ作りを学び、PMS（月経前症候群）や生理休暇の取得率の低さや理由などを盛り込んだ漫才を実際に作ったり、それを豊島区で開催されているD-1グランプリに参加して披露したりと、積極的に活動しています。その他にも、

SNSを活用した活動の広報・宣伝活動に力を入れているメンバーがいたり、「吸水ショーツプロジェクト」として、様々な会社から販売されている吸水ショーツを実際に使ってみて、新たな選択肢としての評価、使い捨てのナプキンと比較しながらゴミの削減への貢献度の検討をしているメンバーがいたり、その活動内容は実に様々です。ちなみに、現在では当ゼミへの所属の有無を問わず、多くのプロジェクトメンバーたちが研究室に出入りするようになりました。学生たちとの日々のコミュニケーションを通じて、私自身も多くの学びをいただいています。きっとこれからも、学生たちからはいろいろなアイデアが湧いてくると思いますので、ぜひ MeWプロジェクトのこれからの皆様に楽しませていただけたらと思います。



—日頃のゼミ活動や MeWプロジェクトを通じて感じている、東洋大生の特徴や魅力について、お考えをお聞かせください。

プロジェクトメンバーに限らない話ですが、社会課題に対する「なぜ」「どうして」を、すぐに声にして発信できること、そして行動できることは、東洋大生たちに共通するとても素晴らしい素養だと改めて感じています。言い換えるなら、それは「当たり前」や「普通」と言われている事象や状況などに対して疑問を持てる「素直さ」とも言えるのではないのでしょうか。この素直さこそが、難しいと思われる課題にもためらわずに向き合い行動する力であり、これからの社会を変えていく原動力になっていくはず。この東洋大生ならではの圧倒的な魅力をもって、学生たちにはぜひ自信を持って巣立ってほしいと願っています。



TOYO-MeWプロジェクトに参加して感じた自分の変化や成長。そして、今後実現したいこと。

TOYO-MeWプロジェクトメンバーの国際学部の皆さんをご紹介 ▶



3年 高橋由奈さん 1年 嘉手納優花さん 2年 村松日穂さん 2年 松本和大人さん 2年 遠藤理歩さん

—皆さんが、MeWプロジェクトに参加して良かったことや、参加したことによる変化として感じていることなどがあれば教えてください。

遠藤 私にとっては、MeWプロジェクトのような生理についてオープンに話せる場があるということがとても新鮮でしたし、「むしろちゃんと話すべきなんだな」と思えるようになったこと自体が大きな変化でした。また、一見では生理について関心がないような人でも、実はどこかで課題を感じていたり、どうしていいか困っていたりすることも多い。そんな事実を知ることができたのも、このプロジェクトに参加したからこそだと思っています。

村松 私個人がMeWプロジェクトに参加したことで特に変化を感じているのは、視野の広がりです。プロジェクトメンバーは何らかの熱量を持って活動している人ばかりなので、知識を吸収させてもらえることはもちろん、日頃からすごく刺激をもらえています。そういったかけがえのない仲間たちに出会えたことこそが、何よりの財産ですね。

松本 僕はMeWプロジェクトに参加するまでは、女性の生理を理解しようとする男性について、同じ男性として「どうしてなんでだろう」と思っていたんです。ただ、今だからこそ言えるのは、「理解しようとするのはわからないから」ということ。そういう意味でも、男性メンバーがMeWプロジェクトに参加することや、男性ならではの視点から課題解決に向けたアプローチを考えていくことには、とても意義があると思っています。



嘉手納 私の場合は、生理の重さを「誰にもわかってもらえないもの」と抱え込んでいた経験があったので、MeWプロジェクトに参加したことで、「理解してくれる人がこれだけたくさんいる」ということにまず感動しました。また、それまで知らなかった新しい知識や情報をどんどん吸収できる場としても、とてもやりがいや楽しさを感じています。

高橋 私は、社会が抱えている生理の課題に対して、「もしかした

ら自分たちでも何かを変えられるかも」と思えるようになったことこそが、一番の変化だと思っています。同じ問題意識を持って活動しているMeWプロジェクトの仲間たちの存在は心強いですし、このプロジェクトがより大きな波になっていけば、救われる人も多くいるんじゃないかなと思っています。



—皆さんは今後、MeWプロジェクトでどんな活動をしていきたいですか？

遠藤 MeWプロジェクトではSNSを通じた活動報告などもしているのですが、SNSで発信をしていると、男女を問わず、いいねやリアクションしてくれる方がとても多いんです。なので、今後もそういった発信には変わらず力を入れていきたいですし、MeWプロジェクトをより多くの方に知っていただけるような機会を増やしていけたらいいなと思っていますね。

村松 私は、今進めている実証実験の分析結果を言語化することで、そういったSNSの発信などにも貢献していけたらと思っています。加えて個人的には、新しいアイデアや意見を出してくれるメンバーたちを、しっかりサポートできる存在になっていきたいです。

松本 まさにMeWプロジェクトをこれまで推進してきた先輩方が、そういう存在でしたからね。「新しいアイデア」というところに関して言うなら、これは個人的なアイデアですが、MeWプロジェクトのメンバーが、生理に悩んでいる人の話を直接聞くような機会や場を設けるのもありかなと思っていますが、どうでしょうか。

嘉手納 生理に関して、実際に「悩みがあるけれど誰にも話せない」という方は少なくないというデータもありましたから、そういった場を設ける取り組みはとても有意義だと思います。

高橋 私も同じ意見です。加えるなら、生理に関して固定概念を持ってしまっている方々に対して、「生理って人によってすごく違うんだよ」「だからこういう風に寄り添うのがいいんだよ」といったことを伝えていける活動などもしていけたら、すごく素敵だなと思います。